

令和5年度に係る学長の業務執行状況の確認結果について

国立大学法人滋賀大学学長選考・監察会議（以下「学長選考・監察会議」という。）は、「国立大学法人滋賀大学学長選考・監察会議規程」第3条第1項第3号及び「学長の業務執行状況の確認に関する基準」に基づき、学長の業務執行状況の確認を行いましたので、その結果を公表します。

1. 確認の経過

令和5年度第4回学長選考・監察会議（令和6年3月14日開催）において、次の資料及び学長に対するヒアリングを通じて学長の業務の実績を確認した。

- ・国立大学法人滋賀大学学長選考基準（令和3年5月31日公表）
- ・所信表明書〔竹村 彰通〕（令和3年8月30日）
- ・令和5年度 国立大学法人滋賀大学 自己点検・評価報告書（令和6年2月21日）
- ・令和5年度 自己点検・評価報告会スライド資料（令和6年2月21日）
- ・学長業務実績報告2023（令和5）年度〔竹村 彰通〕（2024年3月14日）
- ・学長に対するヒアリング（2024年3月14日）

2. 確認結果

学長選考・監察会議は、学長からの業務実績報告及びその後の質疑応答の結果等を踏まえ、令和5年度における学長の業務は適切に執行されていると判断する。

3. 学長選考・監察会議における主な所見

社会との共創分野においては、データサイエンス・AIの社会実装の推進のため、データサイエンス・AIイノベーション研究推進センターに外部資金を活用した人材を据え、国内最大規模のデータサイエンスAI研究教育拠点とした。さらに、「地域中核・特色ある研究大学施設整備事業」採択によって「イニシアティブ棟」新営を可能とするとともに、企業・自治体との連携により、多数のプロジェクトを進行させ、企業等からの共同研究費等の獲得を拡大させた。

また、彦根高商百周年事業を成功させるとともに、社会人向けMOOC教材のオンライン提供を進めている。

教育分野においては、全学的な学部のデータサイエンス教育の体系化を進め、文部科学省の数理・データサイエンス AI 教育プログラム認定を受ける等、充実した成果を見せた。

また、生成 AI に関する教育、リベラルアーツ教育、アントレプレナーシップ教育にも担当のセンターや部門を立ち上げ、講義の開講も始めた。

さらに、大学院教育では、「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業」により、経済学研究科に経営分析学専攻を開設し、教育学研究科では、教育データサイエンス実践学のエキスパート養成を開始した。経営分析学専攻の学生募集に当たっては、学長自ら多数の企業等を訪問する等、積極的な広報活動を行い、志願者増に努めた。

研究分野においては、データサイエンス・AI イノベーション研究推進センターを中心とする産学連携研究および研究成果の社会実装が進み、内容を高度化させている。これら共同研究に従事する教員へは、インセンティブとして外部資金を活用した処遇改善により支援している。

業務運営では、コロナ禍を経て、業務方法の見直しや会議等のオンライン化により業務の効率化を進めた。

また、附属学校園の持続可能性と教育の高度化の観点から、附属学校園の改組に取り組んでおり、任期中に明確な道筋をつけることとしている。

なお、大学構成員からの意見を広く聞くために、毎年「自己点検・評価報告会」を開催していることは有意義であるが、さらに広く意見を聴取する取組を展開することが望まれる。